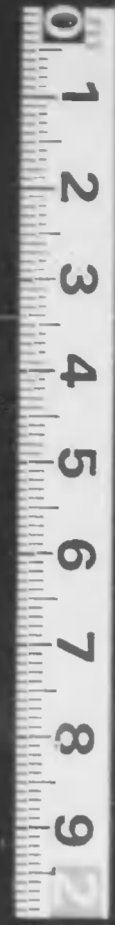


編輯局報情
三月廿二日 第三十四號 第十七

寫真週報

兵器は私たちが造りませう



「自分たちは日本人として當然進むべき道を
進み、やるべきことをやつてゐるまでです」

學窓から敢然空の決戦場へと志し、
今黙々と空への精進をつづける學鷲が
來訪者の感激と激勵の辭に
さりげなく答へた言葉です。

己を捨て、大義に生きる

この學鷲たちの素朴な一言を

あなたもまたさりげなく吐きえませうか

「時の立札」は他へ轉載その他に御利用下さい

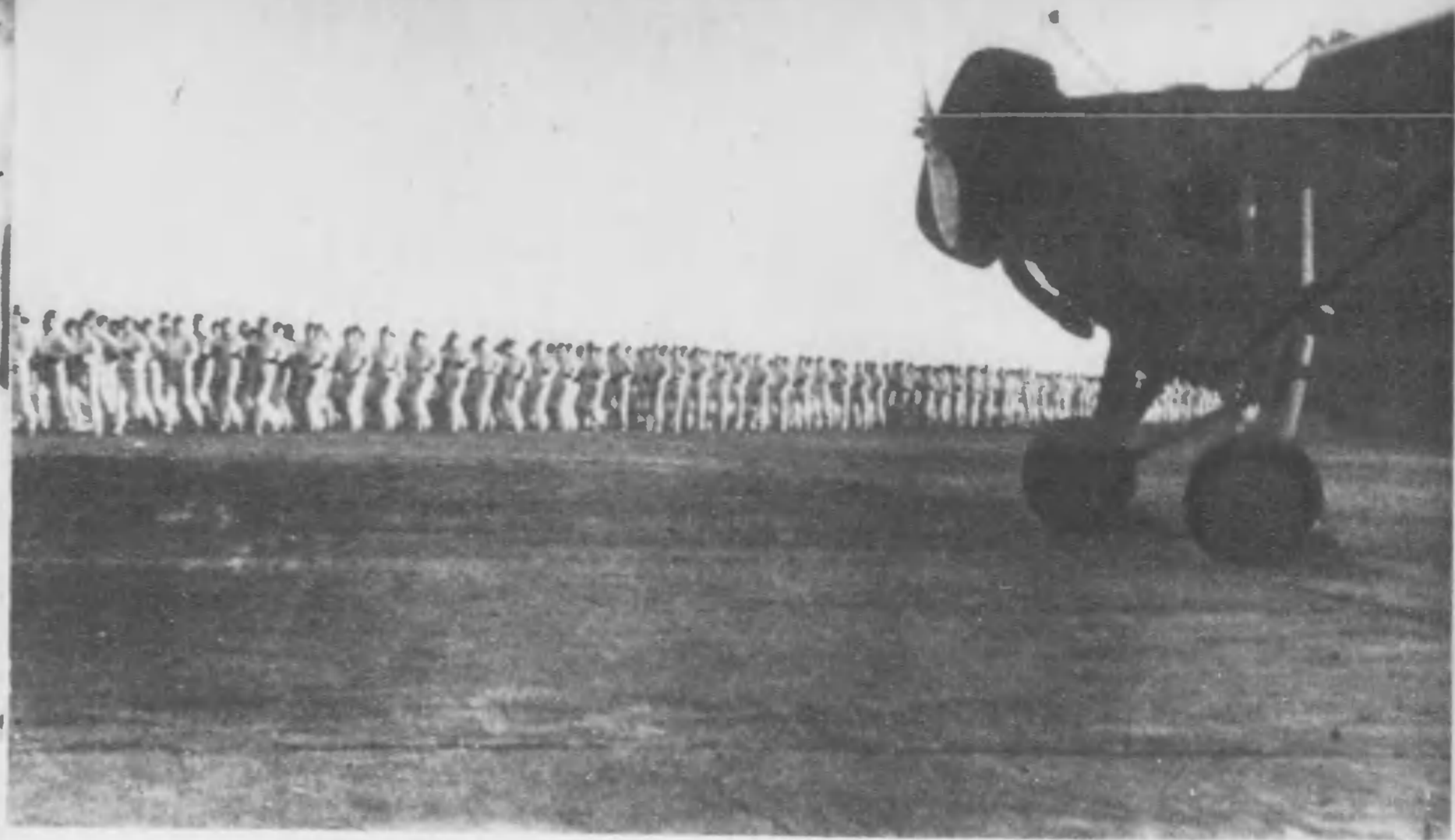
必勝の道をいざ進まう

陸軍記念日當日帝都の軍樂隊騎乘大行進



三月十日、大東亞戰下三度迎へる
光榮の陸軍記念日、この日一億國民
は、奉天會戰の大勝利に輝く父祖の
偉業を偲び、國難重ねて來たる今、
聖戰の完遂を誓つて更に烈敵殲滅の
熱魂を沸かせた

東京では先に決定した「決戦非常措
置要綱」に基づき都内の空地利用を一
段と強化させることになつたが、陸軍
記念日の佳き日を期して、都下一齊に
時々の賑入式を行つた



學鷲の出撃近し

〇〇海軍航空隊

昨秋九月、敵撃滅の決意に燃えて勇躍土浦海軍航空隊その他の航空隊に入隊した學鷲たちはいまだどうしてゐるだらうか

槍機奇烈の戦局を一舉總攻勢へ轉ずべき機をひそかに期待しながら黙々精進一年を誓ふわれら一億國民にとつて、學鷲こそは、われらが困苦に耐へ、まごころを以て遣る飛行機で、傲慢な敵の出身を見事た、き折つてくれる組むべき希望である。その學鷲が出陣の日をめざして如何に自らを鍛へ自らを造りつゝあるか、こゝ〇〇海軍航空隊に彼等を訪ねてみよう

↑ 總員起しの號令と共に寢室から起きるや電光石火、乾布摩擦、洗面、履足集合、朝禮と、朝の目録は急展開である。朝禮終れば、水平線を睥り出たばかりの太陽を望みつゝ、廣い航空隊を庇足で一周、海軍機を元氣一杯やつて、さて朝飯である

↑ 遣價 其本訓練を終つて既に機上無電機と同様の無電機に向つて機上にあつると同様の發信受信の實習中である

↑ 航法 航法で一番大切な、風で飛行機がどれたけ流されてゐるかを機上にあると同機測定實習するために偏流測定地上練習機が使はれてゐるこの學鷲たちの眼下には、學鷲たちが恰も飛行機で飛んでゐるやうに、風で流されてゐるやうに地圖が次から次へ流れてゐる

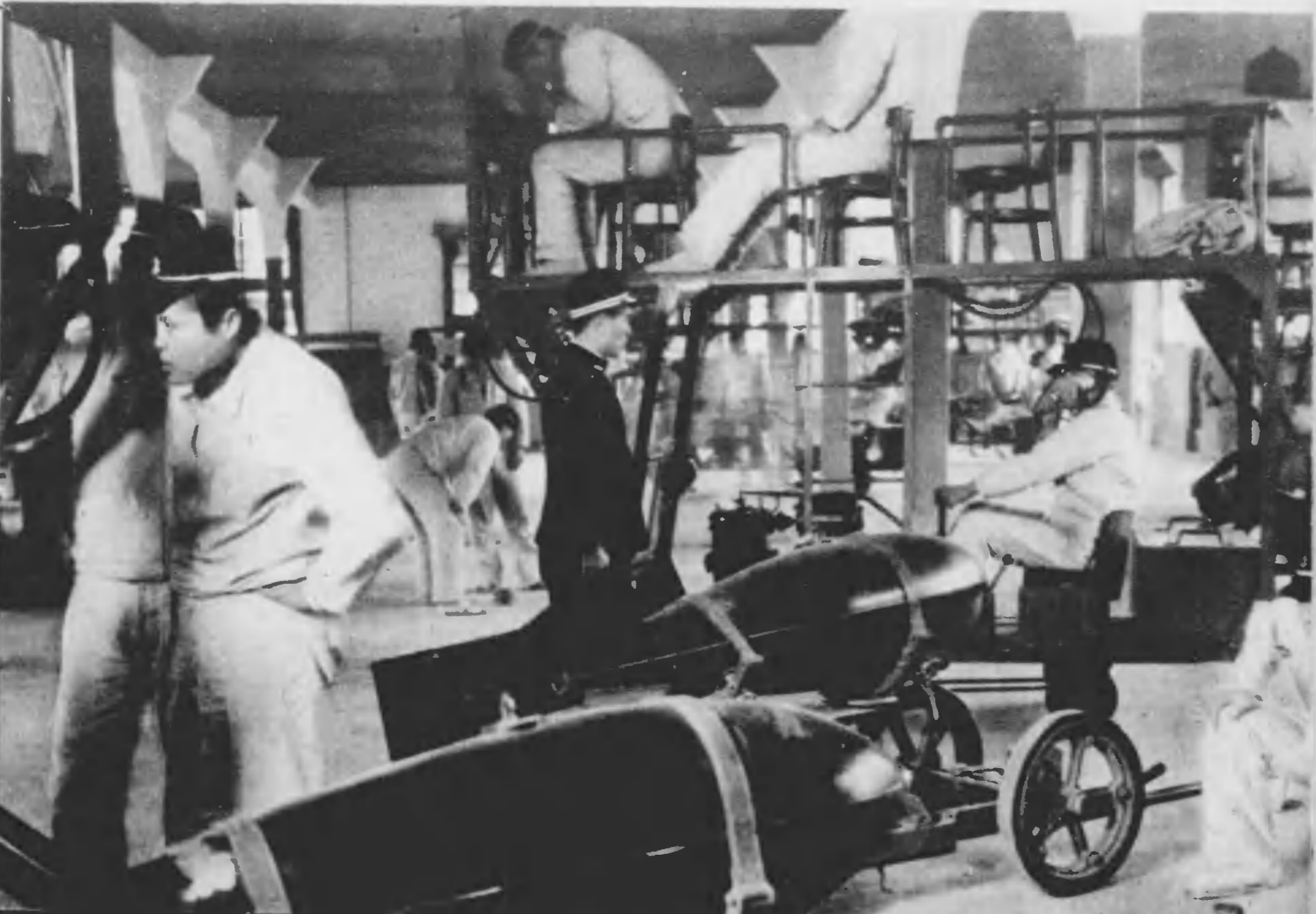


↑ 射撃 敵機を射がいた動機が右から左走つて行く、銃架についた學鷲は必殺の眼光鋭く動機を追つてゲゲゲッとし金を引く。命中弾が一回一發から三發へ更に五發へ、必死の精進は今日も





最短期間に最優秀の海軍をつくりあげる教育の真剣さには、學黨たちも心から感激させられるといふ。どの教育もノモンに、ラペウルに印度洋に輝く武勳をたてた勇士ばかりである。東京即戦場の氣風が漂うのは當然である。



學黨の出撃

地上訓練もすでに始つた。種々の飛行機に乗つて地上で教はつたことの仕上げに學黨たちは夢中だ。飛行場の一角では海軍格闘の演習だ。

○

◇

敵の頭上に快心の一撃を喰はすべきこの座標が、今までどうして抱かれてゐたかを知らなかつた學黨は、また新しいことを一つ知つた。

○海軍航空隊は偵察航空隊である。こゝでは操縦員は育てられてゐないが、中型機や大型機に搭乗して、或ひは無電を打ち、機銃を撃ち、爆撃、雷撃を敢行する海軍が育てられてゐる。空の攻撃隊の中核をなすべき海軍である。

出陣近き

學黨との

座談會

場所 ○○海軍航空隊

- 出席者 甲本 信義(高工土木科出身)
 村杉 哲(京都帝大文学部出身)
 山口 辰夫(福生高工紡織機械科出身)
 中根 香助(金澤高工機械科出身)
 赤澤 俊次(東京都立高工電気工學科出身)
 栗谷 十郎(芝根高商東亞科出身)
 石津 敬(東京帝大文学部出身)
 木村 俊倫(香川師範出身)

編輯者 戦局はご承知のせうに、今や前線極まりなく、既にわが領土の一角を侵した脅かすべき敵軍は、さきに勢ひをたのんでわが神州に東寄せんとしてゐます。今こそ、國に乘つたこの敵の出撃に快心の一撃を喰はせて戦局を一轉すべきときです。しかしながら、戦局を一轉し得るも得ざるも、一に懸つてわが航空戦力の増強如何にあることを思ふとき、國民は皆さん方學黨の出陣に非常な期待を抱いてゐます。今に見ろ、學黨諸君が翼をそらへて貴様たちの素っ首をたゞき折つてくれるから、と甲本 私たちが全國民から期待されてゐることは、新聞雑誌の報道ぶりからも、各地で盛大な歡迎をうけたことからもよく分ります。私たちは、その期待と激闘に應へるために、それだけ立派にやりとげねばならない

と責任を感じて居ます。たゞ現在私達は、一軍の奮闘を待って元氣一杯、今日の勝利は確しむこと、これだけを考へて居ます。

中樞 土浦時代から、今までは私達は、大膽な進取の精神で戦々とやつてゆき、それはよいと信じて居ます。戦場に身を置かれては心ばかりあせつても何にもないと思ひます。今の私達は、そこにある飛行機に乗つて戦場へゆかうと思つても、できないことですが、分隊長殿のいられるところに従つてやつてをりさすれば、やがて戦場へ飛び立つ力一杯、戦と戦ふ日も来るわけです。黙々奮行あるのみです。

石津 私達が軍務を出て航空機搭乗員になつたことを、何か急に違つたことをしてゐるやうに考へてをられるやうですが、私達は、日本人として進むべき道を進み、日本人としてやるべきことをやつてゐるだけですから、本當に自然の氣持でゐたことだと思ひます。若い元氣な日本人である私たちが、飛行機に乗ることも、戦場に行くことも、そして戦死することも當然なことであらうと思つたことはありません。外出する時も友達などから、戦死する時の準備はどうかと、訊かれることがありますが、そんなことを訊かれることは本當に私たちが毎時だと思ひます。どうすれば自分をつくすことができるか、それだけを考へてゐるに、自分をつくすことができれば戦死など怖くありません。

藤田 戦隊の人たちと比べると、皆さん方は相当長い間、軍務にあつたわけですから、いはゆる年がいつてゐるせいで、入隊以來、何かとつらいことがあつたことでもせう。

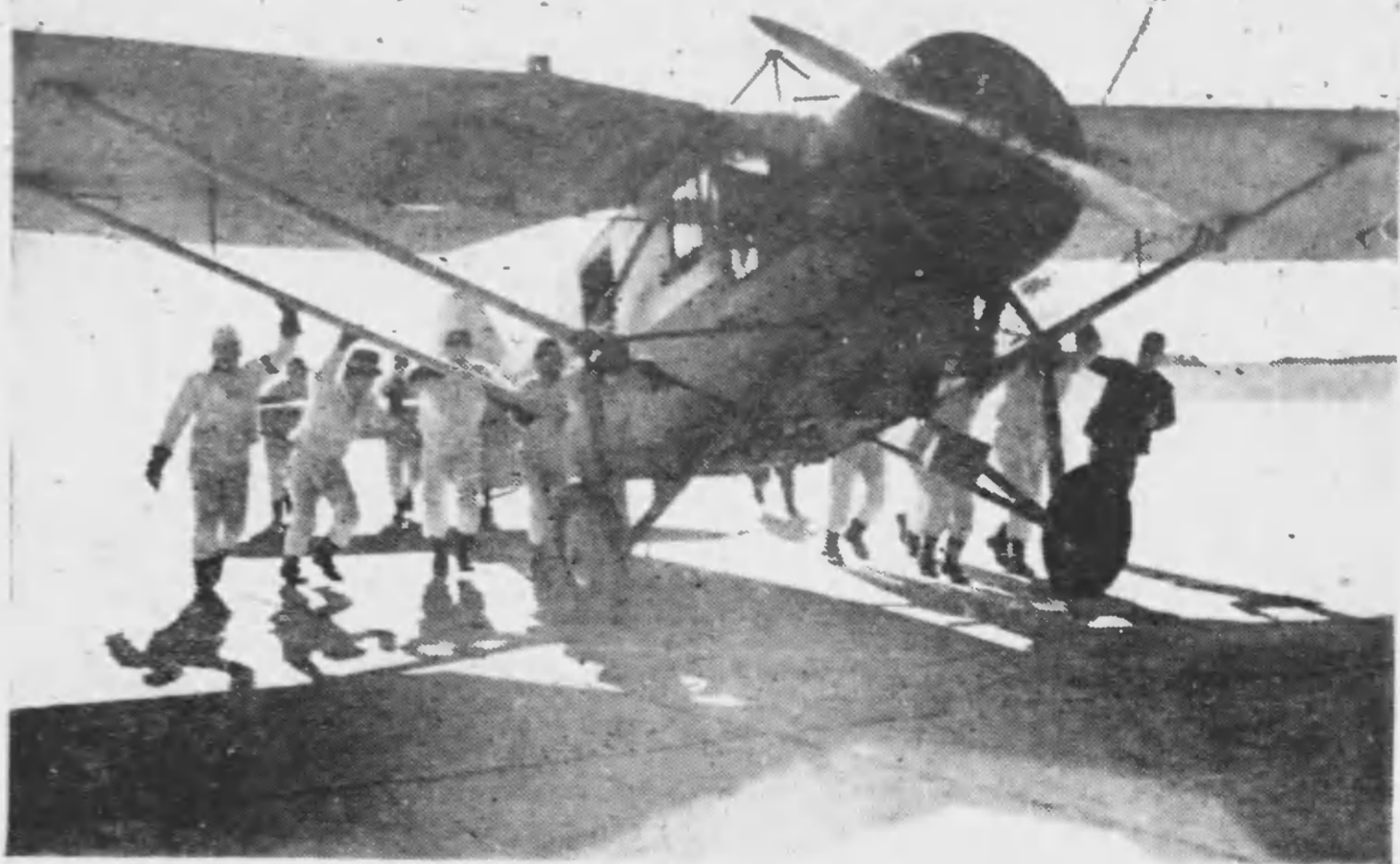
山口 朝から晩までつづいて、私たちがよく働いて居るが、苦勞などといふものは氣の持ち方一つ、考へ方一つで、私達は本當の苦勞などといふものは何もないと思ひます。ときどき、苦しいと思ふこともあつても、それは學生時代のあれが、持が今とは體のどこか残つてゐるせいで、自分で自分の心を戒めてゐます。

赤澤 十津の訓練はそれほど苦しかったとは思ひませんが、あの訓練で、それまでひそかに抱いてゐた不安の念が一掃され

百の理論より一つの實行だ
といふことを痛感しました。藤田君の連中より年がいつてゐるといつたところで、そんなことは問題ではありませぬ。

栗谷 入隊以來、私は訓練的には苦しくはありませんでしたが、精神的には苦しかったです。入隊したとき、私は何とかして立派な軍人にならうと考へ、大いに努力しましたが、努力の甲斐がありません。私は考へにあまつて、外出のとき、一人山に入つて坐禅をしたこともあります。

木村 昔は訓練にきつかなかつたといひますが、自分には正直のところきつと思ふこともありました。しかし、そのきついつ訓練を受けること



「學務たちは練習機を次々と引き出した。あの空を翔けつゝ今日も」と今と根本的に相違してゐる時は、學務たちは練習機を次々と引き出した。あの空を翔けつゝ今日も

によつて一日々お國に近づき得る體に近づけたのだと考へて精進ができました。

石津 私もさう思ひました。學校生活と今と根本的に相違してゐる時は、學務たちは練習機を次々と引き出した。あの空を翔けつゝ今日も

機ではつきりしない目的に向つて勉強してきたのです。いまは、一つの小さなことを成すでも、それがお國に近づく自分といふものができ上つてゆくのが、かきかき感じられる

わけです。
材料 大學にあつたときも、自分なりに目標を定めて勉強してきたつもりですが、設備學生に應じたときの私は、顧みて實力といふものを何一つ持たない裸の村杉が、何となくお國のお役に立ちたいと思ふはつきりした一念からでした。だから、この裸一貫の私を一つ／＼お役に立つ體にして下さる訓練を、かりにも苦痛として受けることはできませんでした。むしろ、分隊長殿や教官殿が、私たちを大卒や専門學校出たといふので、重荷をかけたやうに苦心を加へられてゐるのではないかと、不満に思ふこともあつた位です。

藤田 皆さん方のその進取の氣持と、精進一途の心情を知つたならば、皆さん方の先事も、まづ後輩も大いに感激されることと思ひます。先輩並に後輩へ何か特別にお傳へすることは

石津 先輩の方々に従つて、私も一日も早く戦ひたい。戦つて、戦つて、戦ひ抜きたい、それだけで、山口 戦死された先輩は、もつと多くの飛行機、もつと多くの搭乗員がほしいといひながらなくなつたに違ひありません。

きつとこの腕でその仇を討つ
栗谷のみです。

栗谷 私も先輩の仇をきつと討つてみせます。それから、後輩の諸君には、自分は果して海軍になれるかどうか、なれないのぢやなからうかなと迷ふことなく、學生出身で海軍になるのが當然だと考へて入つてくることを希望します。私も實は志願のときに、私のやうなのが海軍になる資格があるからか迷つたのですが、それは實に下らぬことでした。中樞 その通りです。誰も何の躊躇も

ることなく、終門がまつすは差支の門に突んで行くことです。そして今は軍中からそのつもりで訓練して置くことす

山口 戦隊を出たときは、どうも訓練がなまりますが、軍隊のやうに進行を第一とするところは、このために進んでゐると思ひます。この訓練第一の進取の精神を第一にするやうに希望して居ます。

藤田 戦隊、通信その他理工科系統の訓練が多いと思ひますが、文科系統出身の方はこの點でつらいことはいりませぬか

栗谷 私は三浦とかそのほかのやうに、戦隊を出たときは、どうも訓練がなまりますが、軍隊のやうに進行を第一とするところは、このために進んでゐると思ひます。この訓練第一の進取の精神を第一にするやうに希望して居ます。

赤澤 私三浦時代は理科系統出身のものが多いです。一部の文科系統出身の連中についても、別に苦勞は

木村 昔は訓練にきつかなかつたといひますが、自分には正直のところきつと思ふこともありました。しかし、そのきついつ訓練を受けること

山口 朝から晩までつづいて、私たちがよく働いて居るが、苦勞などといふものは氣の持ち方一つ、考へ方一つで、私達は本當の苦勞などといふものは何もないと思ひます。ときどき、苦しいと思ふこともあつても、それは學生時代のあれが、持が今とは體のどこか残つてゐるせいで、自分で自分の心を戒めてゐます。

赤澤 十津の訓練はそれほど苦しかったとは思ひませんが、あの訓練で、それまでひそかに抱いてゐた不安の念が一掃され

百の理論より一つの實行だ
といふことを痛感しました。藤田君の連中より年がいつてゐるといつたところで、そんなことは問題ではありませぬ。

栗谷 入隊以來、私は訓練的には苦しくはありませんでしたが、精神的には苦しかったです。入隊したとき、私は何とかして立派な軍人にならうと考へ、大いに努力しましたが、努力の甲斐がありません。私は考へにあまつて、外出のとき、一人山に入つて坐禅をしたこともあります。



温習 夕飯をすんで復習をすませに六時からは夜学まで練習である。今日一日に教つたことを復習に身につけておく。

づかしくて居るといふやうなものは一人もありませんでした。

山口 私たちもさう思ひますが、海軍に入つてからの訓練は高等工業でやつたものよりは、かつと程度が低く、中學校を出てゐるものなら誰でも出来ると思ひます。

藤田 さて、皆さん方連日の精進、きつと皆さん方を近い日のうちに、魂烈々たる逞しい海軍に育てあげることと信じます。皆さんの両腕は、この内視の方には、どんな氣持でその晴れた出陣の日をお待ちでせう。また、一般の國民も内視の方と考へ、たとく、生活を切りつめ、窮乏に堪へ、すべてを航空機力の飛躍の増強へ、まかすのみです。

赤澤 私たちは、戦地にいつたとき、自分の乗る飛行機が、生活を切りつめ、まこころをこめて造られたものだといふことを決して忘れませぬ

木村 私たちの出陣が、日本中のすべての人たちのまこころを以て期待され、私たちの乗る飛行機が日本中のすべての人たちのまこころで造られることを考へると、これに堪へる道はたゞ一つ、撃つて、撃つて、撃ちまくるのみです。

山口 私は航空隊に入つていよいよ父母に對して感謝の念が強くなりました。實は、私が準備學生になりたと言つたとき、母親は眞ッ向から反對されましたが、私が日本が勝つためにはどうしても私も學生が飛行機の搭乗員にならねばならぬわけを

に掛けつ、皆さんの出陣を待つて居ます。殊に直接飛行機製造係の工場では、男子の工員はもとより、敢然と戦つと共に一切の私をすてた女子工員、女子挺身隊の人たちも一心になつて皆さんの出陣の日におくれぬやうに、出陣するまで深山の飛行機を造りあげようと思つて居ます。これらの人たちが何か

山口 私も學校時代、或る航空機製造工場へ勤勞奉仕にいつたことがありましたが、部分品を一つ／＼造りながら、これに組立てた飛行機に立派な搭乗員が乗つてくれるのだと考へて思はず感激し、一生懸命になつて造つたことを覚えて居ます。いま方々の飛行機工場で働いて居られる工員諸君や挺身隊の人たちも、きつと同じ氣持でだらうと思ひます。この赤誠のみです。

生きた飛行機に乗つて
きつと期待にそふ働きをしたと思ひます。



あらゆる職場にわたって活躍する女性たち。工場、事務、教育、医療、あらゆる分野で活躍する女性たちの姿が、戦時下の日本を彩っていた。

工場は女性の挺身隊を待たない

戦時下の日本、あらゆる職場にわたって活躍する女性たちの姿が、戦時下の日本を彩っていた。工場、事務、教育、医療、あらゆる分野で活躍する女性たちの姿が、戦時下の日本を彩っていた。

皇國母性としての資質を害はないやう、特に風紀の堅持、品位の向上、保健等に關しては、工場、事業場常務者の監督指導が最重に行はれてゐる。

ともかく、「職場は娘の戦場だ」といふ切實な氣持から職場を見直すことだ。現在、挺身隊が動員される工場を十分知れば、少しの不安もなく、「可愛い娘」の勤勞を喜んで決戦生活に持てることが出るはずである。

皇國母性としての資質を害はないやう、特に風紀の堅持、品位の向上、保健等に關しては、工場、事業場常務者の監督指導が最重に行はれてゐる。

ともかく、「職場は娘の戦場だ」といふ切實な氣持から職場を見直すことだ。現在、挺身隊が動員される工場を十分知れば、少しの不安もなく、「可愛い娘」の勤勞を喜んで決戦生活に持てることが出るはずである。



今日の仕事をこなし、明日の増産を誓う。花や菓子を美しく飾り立てる女性たちの姿が、戦時下の日本を彩っていた。

スウェーデンを美しく飾り立てる女性たちの姿が、戦時下の日本を彩っていた。



内部は寒期、馬蹄形に掘られてゐる。土質がよければ支保工はなくても大丈夫
 空気が、空気がこれで自然に換氣される

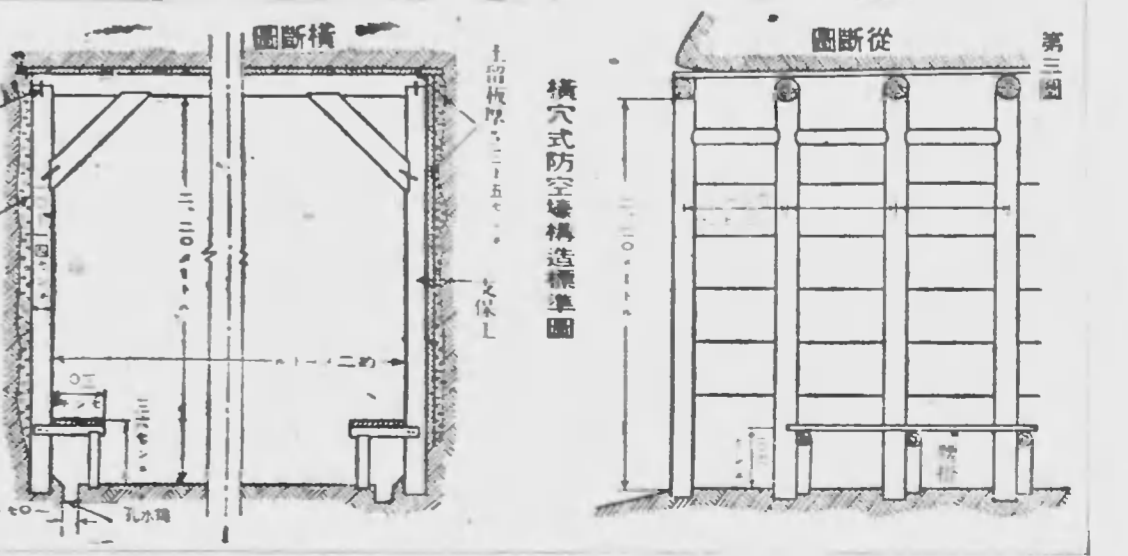


壕空防式穴横
 方り造の



透り、互に連絡がつくやうにして置きます。かろすれば、右方の出入口が塞がれるやうなことがあつても、他の出入口から脱出することができます
 收容人員は十メートルについて三十人とします

イ 型式は原則としては素掘式にしますが、地質の軟弱な所では第三圖のやうに支保工をしなければなりません
 □ 配置は壕と壕の間を十五メートル以上にします(第二圖の)
 ハ 平面形状は爆風を考慮して適當に屈折するとよいのですが、かろすと工事費が多少むづかしくなり、また經費も豫計にかゝります(第一圖の)
 ニ 断面は幅二メートル、高さ二メートルの馬蹄形を標準とします
 ホ 出入口は防護扉を設け、扉の前面には厚さ一メートル以上の防護壁を造ります
 ケ 支保工は地質の軟かいときに第三圖のやうに施します
 ト 排水のため側溝を造り、勾配を適切にして自然に排水できるやうにします
 チ 換氣孔を造つて自然換氣にします
 リ 便所は五十人ごとに一箇を設けます
 ナ こんな要領で造ればよいのですが、位置や造り方が決まれば、扉のほかはシャベルや鋸は、さへあれば素人でも掘ることができるところから、どくく努力を奉仕して造らざるはありませぬか
 一つでも多くつくることが敵爆撃の防害をして、その効果を少くする防空の戦ひなのです
 この横穴式防空壕をばつ場合には、次の事項をよくわきまへて置いて、前もつて用意されておかなければなりません
 第一には避難者が壕にぞろぞろするまでの時間を種々計つて置くこと
 第二にはいざといふとき、避難者が一ヶ所に殺到して混亂しないやうに、前もつて



その壕へ入るものを決めておき、またときどき避難訓練をしておくこと
 第三は避難者を入れる時は、空襲警報發令のときを原則としますが、不時の空襲のときにも状況の許す限り入れます。擔架等で運ばなければならぬ病人や特定の人、警報發令のときに入らざるはありませぬか
 かうした注意のもとに防空活動に萬全を期し、敵機來丸の心構へをいよく聞くし、待つあるを待ち態勢を敏捷にすべきませぬ

た 来 た 来
て つ 乗 に 車 汽 が 真 寫 重 が 活



あつねれば……
幼い胸ははすむ

春とはいひながら北の國はまだ雪にとざされておます。しかも、北海道には電燈のない村、電燈のない驛があつて、人々は荒涼そのもののやうな自然の猛威と戦ひながら、食糧増産に、輸送の確保に血みどろの努力を捧つておます。移動映画列車は、この人々のたとへやうのない勞苦に闘いようと、札幌鐵道局が全國で最初に試みた快速慰問使です

大型の特別車を改造して映寫設備を施し、観客は二百人位、しかも画面の明るさや音の確かさは、札幌の一流館にも決して劣りません。映画列車が運まじい鞭の響きと共に運ぶ娯みを、北國の人々は春の訪れ以上に喜び迎へたこととせう

中間驛路班の人々も、農村の人々も雪の山越えをして



初めて見るトイキーに驚きの眼をみはつて



高量！高量！映画列車高量！

着々準備は進む





少年兵を送る歌

大日本青少年団 制定

♩ - 114

一ム ホニ ツケタル クレーナキノ
ニク にを あげての け一つせんに

ワ カキ ホコリノ コノシル シ イマコソ
われら ゆくべき みちひと つ とほくか

ワ レーラ タ ニーノータ ノ イノチササゲル
みよ一の ひかーしーより つたへうけたる

トネゾキヌユ ケ ヨミクニノ セウーネン
このちしほゆ けまみくにの せうーねん

少年兵を送る歌

胸につけたる くれなひの
若きほこりの このしるし
今こそ我ら 國のため
命捧ぐる 時ぞ来ぬ

一 征けよ、皇國の少年兵、
國を擧げての 決戦に、
我ら行くべき 道一つ、
遠く神代の 昔より、
無へ承けたる この血潮。
征けよ、皇國の少年兵。

二 君がどを、ほまみみて、
富士の高嶺も、ほろむむ。
かの大空に 海時に、
示せ、降参の ちてと胸。
征けよ、皇國の少年兵。

三 海、神洲の 若きくら、
散りて居ある このほまれ。
燃ゆる決意の 肩あけて、
後につづかん 我らまた。
征けよ、皇國の少年兵。

四



共榮園だりよ



共榮園だりよ



共榮園だりよ



共榮園だりよ



共榮園だりよ



共榮園だりよ

「軍情週報」戦時版の
お報らせ

本誌は来る四月五日號から現在の大きさの倍のA3版總グラビア印刷八頁(戦時版)として発行することになりました。戦局の要請にもとづきこれによつて用紙の節約をはかるとともに新構想のもとで眞實傳の威力を一段と發揮するやう編輯に最善の創意工夫を加へることになり目下着々と準備を進めてをります。御期待下さい。尙次の三月二十九日號は休刊いたします。

★表紙

「女ながらも戦つておるといふ自覺。何んといふ誇らかな自覺でせう。妾たちはこの自覺以外に何の不安もありません。今度の非常措置で今まで踏切れたかつたお友達も澤山見えるでせうが、どうか安心して御仲間入りして下さいと、心から申し上げます」
陸軍造兵廠の挺身隊員から

兵站基地滿洲



南滿洲鐵道株式會社

大陸旅行のお問合せは
滿鐵鮮滿支案内所へ

東京都麹町區有樂町一番地ノ二帝國生命會館内
 大阪市東區堺筋安土町二丁目
 名古屋市東區榮町三ノ一
 敦賀市津内町一〇四號字白銀町三ノ八
 門司稅關前
 長崎市萬屋町七九
 下關驛構内山陽ホテル前
 福岡市下小山町一二
 新潟市古町通六番町九五九
 札幌市北二條西三丁目一番地

本誌を回覧に
本誌を、種組や職場で回覧する等、出るだけ有効に御利用下さい。

前線慰問にも
またお読みになった本誌を前線慰問に送りませう。送料は内地と同様に封封のひは開封にして第一種と明記すれば、一部一錢です。

本誌掲載の官製中、機を特名成ひは提供名もの特記は附してのな製法によるものもてす。海軍関係の機第五二號です。

所 達 申	價 定
全國各地官報 週報普及部 新聞販賣店 書店・驛賣店 新聞販賣店	一部十錢 (送料一錢) 外國郵送に依る地域は送料共一部十九錢受領より差額を申受けます。

寫真週報
(禁無断轉載)

昭和十九年三月廿二日 印刷發行

編輯者 東京 印刷局
 印刷者 東京 印刷局
 印刷局 東京 印刷局

〔列強報道〕A4所載定額は33人の資本